

先月までの為替相場のレビューと、
今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2012/01/04

欧州債務懸念でも米国株は強含み

通貨ペア	基調		ページ数
ユーロ/円	➡	100円挟みの展開が続く可能性 予想レンジ: 98.00 ~ 104.00円	2 - 3
ユーロ/ドル	➡	イタリア情勢がカギに 予想レンジ: 1.2800 ~ 1.3500 ドル	4 - 5
ポンド/円	➡	英MPC要人の動向にも注意 予想レンジ: 116.00 ~ 123.00 円	6 - 7
ポンド/ドル	➡	基本的には欧州睨み 予想レンジ: 1.5100 ~ 1.6000 ドル	8 - 9

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2012 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

EUR/JPY

ユーロ/円 12月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	104.35円	105.66円	99.48円	99.55円



①	2日、米11月雇用統計で、失業率が2年8か月ぶりの水準となる8.6%に低下した事を受けて、リスク選好ムードが広がると思惑からユーロ/円は105.66円の高値まで急騰したが、直前には20万人増になるとの噂が出回っていた非農業部門雇用者数が12.0万人増と事前予想(12.5万人増)を下回ったため、NYダウ平均先物が伸び悩むと、すぐに失速した。その後、スペインが格下げされるとの噂が広がった事などを背景にNYダウがマイナス圏に転落すると、ユーロ/円は104.12円まで下落した。
②	8日、欧州中銀(ECB)が0.25%の利下げを発表すると欧州株が持ち直し、ユーロ/円は買い優勢となった。その後のドラギ総裁の会見で3年物資金供給オペの導入や適格担保条件の緩和など、域内銀行の支援策が発表されると、金融システム不安の改善につながると思惑から103.90円まで上昇した。しかし、ドラギ総裁が続けて「国債購入を拡大すると示唆した覚えはない」「ECBは国際通貨基金(IMF)のメンバーではない」などと発言すると、102.98円まで急落した。
③	12日、格付け会社ムーディーズが8日-9日に行われた欧州連合(EU)首脳会議について「新たな対策はほとんどなく、格付け変更のリスクを低下させていない」との見解を示した事を受けてユーロ売りが強まった。また、その後格付け会社フィッチも「EU首脳会議は、ユーロ圏のソブリン債格付けに対する圧力緩和にほとんど寄与していない」との見解を示したことを受けてユーロ/円は102.63円まで下落した。
④	21日、ECBの3年物オペの入札結果が発表され、市場予想(2500億~3000億ユーロ)を大きく上回る4891億9100万ユーロが落札された。これを受けて銀行の資金繰りが改善するとの期待からユーロ/円は102.53円まで上昇したが、その後、同オペでの資金供給量増加を受けて利回り低下が期待されていたイタリアやスペインなどの国債利回りが上昇に転じた事をきっかけに急失速、ユーロ/円は101.45円まで値を下げた。
⑤	29日、イタリア10年債入札で利回りは6.98%と前回に比べると大きく低下したものの、依然として高止まりしており、来年前半に控える同国債の大量償還・借り換えへの懸念からユーロは弱含んだ。その後、モンティ伊首相が「ECBによるイタリア国債購入は、ほぼ終了した」などと述べた事が伝わるとユーロの下げが加速。ユーロ/円は約10年半ぶりの安値となる100.05円まで下落した。
⑥	30日、本邦財務省が発表した12月の外国為替平衡操作(介入実績)が0円だった事を受けて、介入警戒感が薄れると、年末の薄商いの中、ドル/円が77.50円を割り込んで下落。これにつれてユーロ/円も100円ちょうどを割り込んで下落した。その後、一時プラス圏を回復していたNYダウ平均株価が再びマイナス圏に転落すると、2000年12月以来11年ぶりの安値となる99.48円まで値を下げた。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

EUR/JPY

今月のポイント

12月のユーロ/円相場は99.48円～105.66円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約4.6%の大幅下落(ユーロ安・円高)となった。2011年最終営業日となった30日に、オプションバリアの存在が取りざたされていた100円ちょうどを割り込むと下げ足を速め、99.48円まで下落して2000年12月以来の安値を記録した。12月は、ユーロ/ドル(約3.7%)を上回る下落率となっており、根強い欧州の債務不安に加えて、終盤のドル/円の下落がユーロ/円の下落幅を拡大させた格好だ。

欧州債務問題については、最大の懸念はイタリア情勢であろう。同国の10年債利回りは危険水域とされる7%前後で高止まりしており、2012年前半の大量国債償還(借り換え)への懸念がくすぶっている。さらに、ユーロ圏諸国が一斉に緊縮財政に取り組むため景気減速懸念がくすぶり続けると見られ、欧州中銀(ECB)による金融緩和も長期化せざるを得ないとの見方が強い。このためユーロを買い上げるムードは高まりにくいだろう。ただ、市場は悲観ムード一色というわけでもない。2011年の米NYダウ平均株価は5.5%の上昇となっており、欧州債務問題が深刻化した割には堅調を維持している。米国の経済指標に好結果が目立つ中でも追加緩和観測がくすぶり続けているため、今年も米株高基調が続くとの見方が強い。1月は、6日の米雇用統計や12日の米小売売上高に続き、27日の米第4四半期国内総生産(GDP)・速報値も好結果が見込まれており、株高がユーロの下値を支える可能性がある。ユーロ/円は上値は重いながらも大きく下押し事はなさそうだ。(神田)

(予想レンジ:98.00～104.00円)

今月の注目材料

日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
1/3(火)	12月独雇用統計	1/12(木)	12月米小売売上高
	12月米ISM製造業景況指数	1/13-20	第4四半期中国GDP
	FOMC議事録	1/17(火)	1月独ZEW景況感調査
1/4(水)	12月ユーロ圏消費者物価指数・速報	1/19(木)	12月米住宅着工件数
1/5(木)	12月米ADP全国雇用者数	1/23(月)	ユーロ圏財務相会合
	12月米ISM非製造業景況指数	1/24(火)	日銀金融政策決定会合(23日～)
1/6(金)	12月米雇用統計	1/25(水)	1月独IFO景況指数
1/9(月)	独仏首脳会談		米FOMC政策金利発表
1/9-13	12月中国消費者物価指数	1/27(金)	第4四半期米GDP・速報値
1/11(水)	米地区連銀経済報告	1/30(月)	EU首脳会議
1/12(木)	欧州中銀金融政策発表		

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

EUR/USD

ユーロドル 12月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	1.3445ドル	1.3542ドル	1.2858ドル	1.2942ドル



①	5日、独仏首脳会談後の会見でメルケル独首相が「ユーロ圏共同債は拒否する」と発言した事を受けてユーロドルは売り優勢となった。その後、英FT紙が「格付け会社S&Pが、独仏を含む『AAA』格付けの欧州諸国を90日以内に格下げする可能性がある『クレジットウォッチ・ネガティブ』に指定する」と報じた事を受けてユーロ売りが加速した。
②	8日、欧州中銀(ECB)が0.25%の利下げを発表すると欧州株が持ち直し、ユーロドルは買い優勢となった。その後のドラギ総裁の会見で3年物資金供給オペの導入や適格担保条件の緩和など、域内銀行の支援策が発表されると、金融システム不安の改善につながると思惑から1.3458ドルまで上昇した。しかし、ドラギ総裁が続けて「国債購入を拡大すると示唆した覚えはない」「ECBは国際通貨基金(IMF)のメンバーではない」などと発言すると、ユーロドルは1.3289ドルまで下落した。
③	12日、格付け会社ムーディーズが8日-9日に行われた欧州連合(EU)首脳会議について「新たな対策は殆どなく、格付け変更のリスクを低下させていない」との見解を示した事を受けてユーロ売りが強まった。また、格付け会社フィッチも「EU首脳会議は、ユーロ圏のソブリン債格付けに対する圧力緩和にほとんど寄与していない」との見解を示した事を受けてユーロドルは1.3162ドルまで下落した。
④	14日、ユーロ圏諸国の格下げ懸念に加え、前日の米連邦公開市場委員会(FOMC)で、一部に期待のあった量的緩和第3弾(QE3)を示唆する文言がなかった失望感から欧州株が下落。その後、イタリア国債入札(5年物)で落札利回りが過去最高水準の上昇した事をきっかけにユーロドルは節目の1.30ドルを割り込むと、1.2945ドルの安値まで下げが加速した。
⑤	21日、ECBの3年物オペの入札結果が発表され、市場予想(2500億~3000億ユーロ)を大きく上回る4891億9100万ユーロが落札された。これを受けて銀行の資金繰りが改善するとの期待からユーロドルは1.3197ドルまで上昇したが、その後、同オペでの資金供給量増加を受けて利回り低下が期待されていたイタリアやスペインなどの国債利回りが上昇に転じた事をきっかけ急失速、ユーロドルは1.3025ドルまで値を下げた。
⑥	29日、イタリア10年債入札で利回りは6.98%と前回に比べると大きく低下したものの、依然として高止まりしており、来年前半に控える同国債の大量償還・借り換えへの懸念からユーロは弱含んだ。その後、モンティ伊首相が「ECBによるイタリア国債購入は、ほぼ終了した」などと述べた事が伝わるとユーロの下げが加速。ユーロドルは年初来安値を更新して1.2858ドルまで下落した。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

EUR/USD

今月のポイント

12月のユーロ/ドル相場は1.2858ドル～1.3542ドルのレンジで推移し、月間の終値ベースでは約3.7%の下落(ユーロ安・ドル高)となった。

12月8日、9日のEU首脳会議では、ユーロ圏17カ国による財政規律の強化に向けた条約改正や、安全網である欧州安定メカニズム(ESM)の前倒し発足などが合意されたが、市場の不安を払拭することは出来なかった。今後の最大の焦点はイタリア情勢であろう。同国の10年債利回りは「危険水域」とされる7%前後で高止まりしており、欧州中銀(ECB)による流通市場での買い入れや3年物のユーロ資金供給オペを持ってしても利回り低下につながらなかった。イタリアは2012年前半だけで2000億ユーロ前後の国債償還を迎えるため、これらの借り換えに困難が生じる可能性がある。こうしたイタリアへの懸念に加え、格付け会社によるユーロ圏諸国の格下げ懸念(1月にS&Pが格下げを発表する可能性が高いとされている)がユーロの上値を抑えると見られる。しかし一方で、米国経済が比較的堅調に推移する中、追加緩和期待も相まって1月の米国株は堅調に推移するとの見方が強く、これが、ユーロの下値を支えそうだ。1月のユーロ/ドル相場は、値動きは荒いながらも、レンジ内での推移にとどまると見られる。(神田)

(予想レンジ:1.2800～1.3500ドル)

今月の注目材料

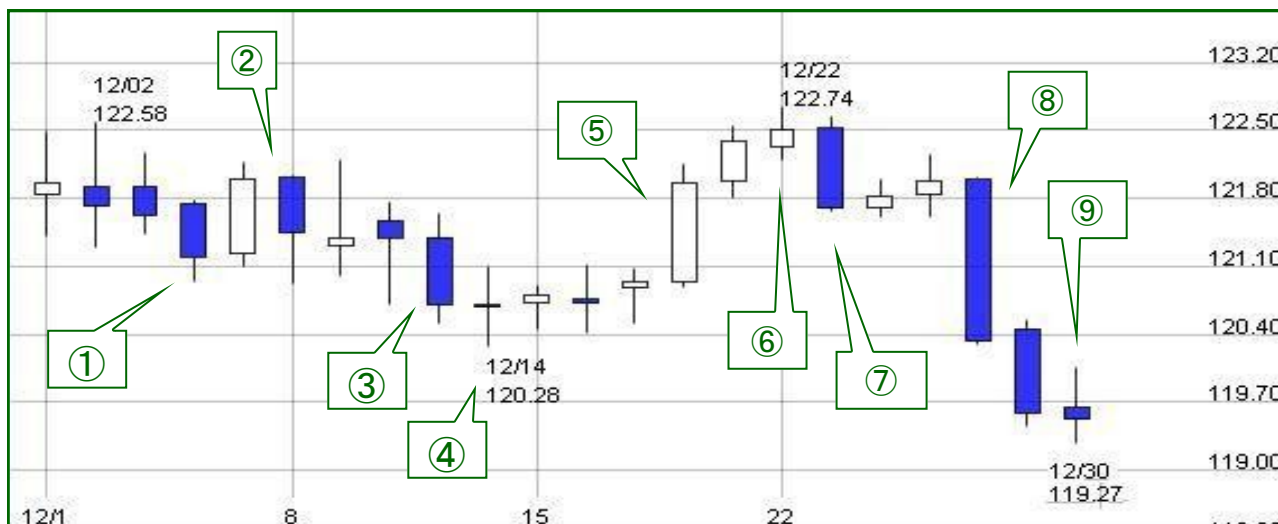
日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
1/3(火)	12月独雇用統計	1/12(木)	12月米小売売上高
	12月米ISM製造業景況指数	1/13-20	第4四半期中国GDP
	FOMC議事録	1/17(火)	1月独ZEW景況感調査
1/4(水)	12月ユーロ圏消費者物価指数・速報	1/19(木)	12月米住宅着工件数
1/5(木)	12月米ADP全国雇用者数	1/23(月)	ユーロ圏財務相会合
	12月米ISM非製造業景況指数	1/25(水)	1月独IFO景況指数
1/6(金)	12月米雇用統計		米FOMC政策金利発表
1/9(月)	独仏首脳会談	1/27(金)	第4四半期米GDP・速報値
1/9-13	12月中国消費者物価指数	1/30(月)	EU首脳会議
1/11(水)	米地区連銀経済報告	1/31(火)	1月米シカゴ購買部協会景気指数
1/12(木)	欧州中銀金融政策発表		

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

GBP/JPY

ポンド/円 12月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	121.85円	122.74円	119.27円	119.52円



- ① 6日、格付け会社S&Pが「欧州金融安定ファシリティ(EFSF)の長期格付けをネガティブに指定」「AAA格付けのユーロ圏諸国が格下げとなる場合、EFSFはAAA格付けを失う可能性があるなど」と発表し、ユーロ/円が下落すると、ポンド/円も120.95円まで値を下げた。
- ② 8日、欧州中銀(ECB)が0.25%の利下げを発表すると欧州株が持ち直し、ポンドは反発したが、その後のドラギ総裁の会見で「国債購入を拡大すると示唆した覚えはない」「ECBは国際通貨基金(IMF)のメンバーではない」などと発言し、ユーロ/円が失速すると、ポンド/円も連れ安となった。なお、BOEの金融政策は市場予想どおり据え置きとなり、反応は限定的だった。
- ③ 13日、メルケル独首相がESMの融資上限に関して「いかなる引き上げ案にも反対」していると伝えられ、ユーロ/円が急落すると、ポンド/円も連れ安。さらに、その後に発表された米連邦公開市場委員会(FOMC)声明では「米経済は、世界経済が減速している中でも緩やかに拡大している」とし、QE3への直接の言及は見られずQE3への期待から上昇していたNYダウ平均株価が反落すると、リスク回避の動きが強まり、ポンドは120.51円まで値を下げた。
- ④ 14日、まとまったポンド買い注文をきっかけに121.09円まで上昇。その後発表された英11月雇用統計では、失業率が5.0%、失業保険申請件数推移は3000件増とそれぞれ事前予想(5.1%、1.37万件増)より良好な結果となったが、上値は限られ、伊国債入札の不調を背景にユーロ/円が反落すると、ポンド/円も連れて120.28円まで下落した。
- ⑤ 20日、スペインの短期債入札で落札利回りが大幅に低下したことや、米11月住宅着工件数が68.5万件と予想(63.5万件)を大幅に上回ったことを背景に欧米株が上昇すると、ポンド/円も122.15円まで上昇した。
- ⑥ 22日、欧州市場序盤にポジション調整のユーロ買いが入り、ユーロ/円が上昇すると、ポンド/円も連れ高。122.74円まで上昇した。しかし、クリスマス前で市場参加者が少ない中、それ以上の買いは進まず、その後はもみ合いに終始した。
- ⑦ 23日、格付け会社S&P幹部の話として「ECBによる資金供給にも関わらず域内の銀行は格下げの危機に見舞われている」と伝わりユーロ/円が下落すると、ポンド/円も連れ安となった。
- ⑧ 28日、ロンドン16時(日本時間25時)のフィクシングに向けたまとまった規模のポンド売り・ドル買いが入ると、ストップを絡めつつ急落。これに連れる形でポンド/円も急落した。
- ⑨ 30日、市場参加者が少ない中、日本の12月の外国為替平衡操作の実施状況が0円だったことを受けて円売り介入期待が後退し、円が全面的に上昇すると、ポンド/円は119.27円まで下落した。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

GBP / JPY

今月のポイント

12月のポンド/円相場は119.27～122.74円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約1.8%の下落(ポンド安・円高)となった。12月のポンド/円相場も前月に続き、ほとんどユーロ/円に連れる展開だった。独自の材料に対する相場の反応はほとんど見られず、ひたすら欧州債務問題を睨みながら、対ユーロでの円、ポンドのそれぞれの動きがポンド/円を左右する展開だった。ただ、ユーロ/円と比べ、中旬まではポンド/円の方が底堅く推移していた印象だが、下旬に入ると年末を見据えたポジション整理のポンド売りが強く、下げる場面ではユーロ/円以上に急激に下落する様子も見られた。

欧州債務問題に対する懸念は収まっておらず、年明け後はまず格付け会社S&Pによるユーロ圏諸国の格下げの可能性などが注目されている。また、EU加盟国の財政規律強化やESMについての詳細をどうしていくのか、EU財務相会議やEU首脳会議で話し合われる内容についての観測報道がユーロの方向感の鍵になってくる。ポンド/円は特にユーロ/円の動きに注目して取引する必要があるだろう。

英国の経済指標そのものを受けてポンドが大きく動く可能性はさほど高くないが、英中銀(BOE)の要人発言については注目したい。2011年10月に増額した資産買い入れ枠は2月で使いきる見通しのため、さらなる買い入れ枠拡大について、今月時点で英金融政策委員会(MPC)のメンバーがどのような見解を持っているのかを見定める必要が出てくる。2月の買い入れ規模拡大が濃厚になれば、ポンド売り要因となるだろう。(ジェルベズ)

(予想レンジ: 116.00～123.00円)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

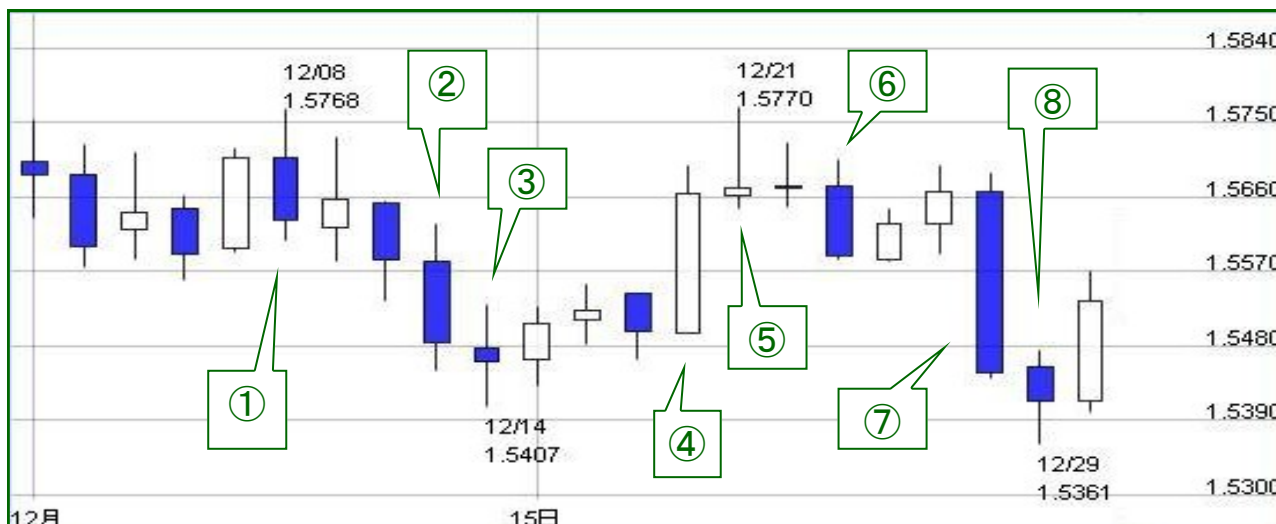
日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
1/3(火)	12月英PMI製造業	1/13(金)	1月ミシガン大消費者信頼感指数・速報値
	12月米ISM製造業景況指数	1/17(火)	12月英消費者物価指数
1/4(水)	12月英PMI建設業	1/18(水)	12月英雇用統計
1/5(木)	12月英PMIサービス業	1/19(木)	12月米消費者物価指数
	12月米ISM非製造業景況指数	1/20(金)	12月英小売売上高指数
1/6(金)	12月米雇用統計	1/23(月)	EU財務相会議
1/9(月)	独仏首脳会談	1/24(火)	日銀金融政策決定会合(23日～)
1/11(水)	11月英商品貿易収支	1/25(水)	BOE議事録
1/12(木)	11月英鉱工業生産		第4四半期英GDP・速報値
	BOE政策金利発表		FOMC政策金利発表
	ECB金融政策発表	1/27(金)	第4四半期米GDP・速報値
	12月米小売売上高	1/30(月)	EU首脳会議
1/13(金)	12月英生産者物価指数	1/31(火)	1月米シカゴ購買部協会景気指数

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

GBP/USD

ポンド/ドル 12月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	1.5702ドル	1.5770ドル	1.5361ドル	1.5535ドル



①	8日、欧州中銀 (ECB) が0.25%の利下げを発表すると欧州株が持ち直し、ポンドは1.5768ドルまで反発したが、その後のドラギ総裁の会見で「国債購入を拡大すると示唆した覚えはない」などと発言しユーロ/ドルが失速すると、ポンド/ドルも連れて大幅安となった。なお、イングランド銀行 (BOE) の金融政策は市場予想どおり据え置きとなり、反応は限定的だった。
②	13日、メルケル独首相が欧州安定ファシリティ (ESM) の融資上限に関する「いかなる引き上げ案にも反対」としたことを受けてユーロ/ドルが急落するとポンド/ドルも連れ安。さらに、その後に発表された米連邦公開市場委員会 (FOMC) 声明で追加量的緩和への言及が見られ無かったことから、事前に期待感で上昇していたNYダウ平均が反落すると、ポンドは一段安となった。
③	14日、英11月雇用統計では、失業率が5.0%、失業保険申請件数推移は3000件増とそれぞれ事前予想 (5.1%、1.37万件増) より良好な結果となったが、上値は限定的。その後、伊国債入札の不調を背景にユーロ/ドルが反落すると、ポンド/ドルも連れ安した。
④	20日、スペイン債入札が堅調で利回りが大幅低下したことや、米11月住宅着工件数が68.5万件と予想 (63.5万件) を大幅に上回ったことから欧米株が上昇すると、ポンド/ドルも1.5699ドルまで上昇した。
⑤	21日、ECBの3年物オペの入札結果が発表され、市場予想の倍近い応札・落札額が伝えられると、直後の市場では銀行の資金繰りが改善するとの期待からユーロ/ドルが上昇。これに連れてポンド/ドルは1.5770ドルまで値を伸ばした。しかし、買い一巡後は失速。なお、この日はBOEが金融政策委員会 (MPC) 議事録を発表したが、市場予想どおり金融政策の据え置きが全会一致での決定だった。一部の委員が追加の量的緩和が正当化される可能性を主張したことも明らかになったが、ECBのオペに市場の関心が集中していたこともあり、反応は乏しかった。
⑥	23日、格付け会社S&P幹部の話として「欧州中央銀行 (ECB) による資金供給にもかかわらず、域内銀行は依然として格下げの危機に見舞われている」との見解が伝えられた事を受けてユーロ/ドルが下落すると、ポンド/ドルも連れ安した。
⑦	28日、ロンドン16時 (日本時間25時) のフィキシングに向けたまとまった規模のポンド売り・ドル買いが入ると、ストップを絡めつつ急落した。
⑧	29日、モンティ伊首相が「ECBによるイタリア国債購入はほぼ終了した」などと発言したことが伝わり、ユーロ/ドルが値を下げると、ポンド/ドルも連れて1.5361ドルの安値をつけた。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

GBP / USD

今月のポイント

12月のポンド/ドル相場は1.5361～1.5770ドルのレンジで推移し、月間の終値ベースでは約1.0%の下落(ポンド安・ドル高)。この月のポンド/ドルはおおむね方向感がなかったと言える。前半はユーロ/ドルに連れて軟調だったが、後半についてはユーロ/ポンドでのポンドの動きに連れる様子も散見された。依然として欧州債務問題が為替相場の関心の的だったことから、ポンド/ドルは対ユーロでのドルとポンドが綱引きする格好となり、これが方向感が出にくい相場につながったと見られる。また、年末を睨んだポジション整理の動きなどによって大きく動く場面も見られた。

欧州債務問題と、それを睨んでのユーロ中心の相場は今月も続きそうだ。格付け会社S&Pによるユーロ圏諸国の格下げ懸念や、EU加盟国の財政規律強化やESMについての詳細をどうしていくのか、独仏首脳会談やEU財務相会議、EU首脳会議で話し合われる内容についての観測報道などがその軸になってくるだろう。ポンド/ドルはこれまでと同様、ユーロ/ドルとユーロ/ポンドの動きを両にらみで取引する必要があるだろう。

また、BOE要人の発言内容などにも注目したい。2011年10月に増額した資産買い入れ枠は2月で使いきる見通しのため、さらなる買い入れ枠拡大について、英金融政策委員会(MPC)のメンバーがどのような見解を持っているのかを見定める必要が出てくる。1月のMPCで何もなくとも、2月の買い入れ規模拡大が濃厚になれば、ポンド売り要因となるだろう。(ジェルベズ)

(予想レンジ:1.5100～1.6000ドル)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
1/3(火)	12月英PMI製造業	1/13(金)	1月シガン大消費者信頼感指数・速報値
	12月米ISM製造業景況指数	1/17(火)	12月英消費者物価指数
1/4(水)	12月英PMI建設業	1/18(水)	12月英雇用統計
1/5(木)	12月英PMIサービス業	1/19(木)	12月米消費者物価指数
	12月米ISM非製造業景況指数		1月米フィラデルフィア連銀景況指数
1/6(金)	12月米雇用統計	1/20(金)	12月英小売売上高指数
1/9(月)	独仏首脳会談	1/23(月)	EU財務相会議
1/11(水)	11月英商品貿易収支	1/25(水)	BOE議事録
1/12(木)	11月英鉱工業生産		第4四半期英GDP・速報値
	BOE政策金利発表		FOMC政策金利発表
	ECB金融政策発表	1/27(金)	第4四半期米GDP・速報値
	12月米小売売上高	1/30(月)	EU首脳会議
1/13(金)	12月英生産者物価指数	1/31(火)	1月米シカゴ購買部協会景気指数

巻頭の特記事項を必ずお読みください。